

航空業におけるその他の乗物を起因物とする死傷災害発生事例（2017年）

2017年発生月	時間	死傷災害発生事例	年齢	労働者規模
4	9～10	客室後方乗務員席（R2）で、着陸に備え着陸姿勢をとっていたとき、機体が接地する際に通常より強い衝撃で接地し、着陸後に右肋骨背中に強い痛みを発症した。	24	1000～9999
6	10～11	客室後方の左側乗務員席に着席し、着陸に備えた姿勢をとっていたところ、接地の際の衝撃により、左首筋に痛みを感じた。	41	1000～9999
7	18～19	着陸時、窓の外を見てまもなく接着すると認識した上で、脚は垂直におろし、手でCAシートを持つ姿勢で通常の着座姿勢を取った。着陸と同時にガツンと体にくる強めの衝撃を感じ、鋭い腰の痛みを感じた。窓側の頭上物入れが開き、窓側の酸素マスクが落下した。肩・背中の痛みや違和感を旅客降機の機内整理時に自覚し、旅客降機後責任者へ報告。	29	1000～9999
7	18～19	周辺の天候がやや不安定であった。着陸の際、窓から外を見て着陸するタイミングを把握し、脚を垂直におろして座席に深く腰掛けた状態で背中を背当てにつけ、手でCAシートを持つ姿勢で通常の着座姿勢を取っていたが、着陸時にやや強い衝撃を感じた。その際に、首から背中上部にかけて痛みを感じた。機内25ABC上の酸素マスクが落下、13ABC頭上物入れが開いた状況だった。勤務終了後、遅い時間であったため、そのまま帰宅した。	24	1000～9999
7	14～15	屋外ヘリポートにて、機体の点検を実施しているとき、開いているレドームのパネルを固定している突出したピンが、自分の不注意により目に当たった。	22	300～499
		離陸15分後、前方ギャレーにて機内サービスの準備を開始した際、床面に500円		1000

9	1~2	硬貨2個分程度の大きさの濡れがあり足を滑らせた。斜め外側方向に左膝を向けてしまい、無理な力がかかり足をひねり受傷。当該患部を瞬間冷却パックで冷却を実施し、帰国まで市販湿布薬および包帯にて冷却・固定をした。	32	~ 9999
10	17~ 18	着陸を認識し、乗務員用シートに通常の着座姿勢を取っていたが、大きな音とともに強めの衝撃があった。一部の旅客はびっくりした様子で、小さく声をあげている人がいた。腰に強く負荷がかかるのを感じたものの、痛みは無かったためチーフパーサーへの報告はしていない。次便乗務終了後、自宅への帰宅途中から徐々に痛みが出てきた。	27	~ 9999
12	12~13	空港内の当社格納庫入口付近において、航空機の整備のため、機体を牽引車両で格納庫に入れようと牽引車両を動かした際、何らかの原因で航空機の左主脚が折りたたまれたことで、機体が左に傾き、当該者が左翼と地面との間に挟まれた。救出後、搬送先の病院で死亡した。	31	300 ~ 499

出典：[https://anzeninfo.mhlw.go.jp/anzen\\_pgm/SHISYO\\_FND.aspx](https://anzeninfo.mhlw.go.jp/anzen_pgm/SHISYO_FND.aspx)(職場のあんぜんサイト)

Return to : [https://www.jisha.or.jp/international/topics/202206\\_11.html](https://www.jisha.or.jp/international/topics/202206_11.html)